

Title	「リアルティーのある賛美」を求めて
Author(s)	小松澤, 恵
Citation	キリスト教と諸学 : 論集, Volume28, 2013.3 : 123-133
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4456
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

「リアリティーのある賛美」を求めて

小松澤 恵

一 はじめに

後の世代のためにこのことは書き記されねばならない。

「主を賛美するために民は創造された。」（詩編一〇二・一九、新共同訳、傍線筆者）

この創造の目的にふさわしく、すべての人々を賛美する民へと導くために、私たちはどのように取り組んでいったらよいのでしょうか。

礼拝（＝レイトルギア 民の働き）の会衆賛美というのは、礼拝に参加するすべての人が心と声を合わせて、神を賛美し、証しをすることができる機会です。また礼拝での音楽は、礼拝の雰囲気を作り出し、礼拝者に神の存在

を気づかせ、心を神の方へ向けさせる働きもあります。また言葉では表せないものを、礼拝音楽を通して経験することができます。ゆえに礼拝計画にあたっては、会衆がこのような礼拝音楽体験ができ、賛美によって自分自身を表現できるように十分配慮する必要があると思います。

二 会衆賛美の選曲において留意すること

賛美歌を選ぶときに、それが未信者には理解できないキリスト教専門用語やたとえがないか、また、成熟を目指す歌詞なのか、礼拝、交わり、伝道についての歌詞なのか注意を払う必要があります。

あるバプテストの牧師で開拓伝道の現場で仕えておられる先生のコラムには次のような内容のことが書かれています。

「開拓伝道に遣わされ、地域の方々との礼拝をしていく中で感じさせられたことの一つは、教会の外と中との文化的ギャップの問題です。……略……この日本は、教会の外に一步出れば、聖書や讚美歌に触れたことのない人にあふれています。教会での自明の言葉、賛美が、教会の外の文化に生きてきた人びとに、どのように届くのでしょうか。リアリティーのある福音が伝えられるために、今のままでよいのでしょうか。……教会は今、三・一一の震災以後の世界に生きる人々に、リアリティーをもって届く福音の言葉、賛美の言葉をもっているかが問われています」¹

三 三・一一震災以後の世界に、「リアリティーのある賛美」を求めて

1 一九七〇年代以降の英語圏（おもに英米）におこった二つの会衆賛美刷新の動き

さてそこで「リアリティーのある賛美」を求めて、一九七〇年代以降の英語圏（おもに英米）におこった二つの会衆賛美刷新の動きを、ご紹介したいと思います。①歌われる歌詞の現代性を追求する「Hymn Explosion」と②歌われる旋律の日常性を追求する「Praise & Worship Movement」です。

これらは実際に二〇世紀最後の四半世紀（四分の一世紀、二五年間）に世界規模での大きな影響力を及ぼしてきた礼拝神学運動で、日本でここ数年各教派から相次いで出版された新しい讚美歌も少なからずその影響を受けています。

① Hymn Explosion

現代の牧師の説教に見合うだけの現代的な内容と質を兼ね備えた讚美歌が少ないとの議論が「タンブレイ教会音楽・讚美歌協議会」（一九六二—一九六九）になされたことにより、特に英語圏において「爆発的」と言われるほど多くの讚美歌新作作品が生み出された現象のことです。この動きによって生み出された讚美歌は教会の公の告白の言葉である讚美歌について、説教の言葉と同様の意味で深い神学的な反省の目を向けました。第一義的には賛美の「音楽」以上に「歌詞」（あるいは「会衆の言葉」）についての深い関心ははられました。^②

Hymn Explosion の例として『讚美歌21』516番より「主の招く声が」(原詞: Fred Pratt Green, 曲: C. Hubert H. Parry) を歌ってみましょう。

1 主の招く声が 聞こえてくる。
日ごとにやしない、新しく生かす、
私たちを 招く声が。

4 新しい課題も 日々のわざも
十字架を負われた 主が与えられた
つとめとして 励んでゆこう。

2 呼ばれるこの身は 力も無く、
この世の重荷と わずらいの中で
くびぎを負い、あえいでいる。

5 主の招く声が 聞こえてくる。
こんな小さな 私たちさえも
みわざのため 用いられる。

3 み声に応えた 聖徒たちの
歩みに従い、 私たちもまた
主の名を身に 帯びて進もう。

(日本基督教団讚美歌委員会著作物)
使用許諾第3843号を得て掲載)

この讚美歌の歌詞を見ますと、非常に平坦で分かりやすい言葉が使われていることに気がつきます。そして内容も『現代の賛美歌ルネサンス』の著者、横坂氏によりますと、「信仰的に大きな決断が必要とされる時、ただではなく、『日常生活の中でこんな小さな私でさえも参与できる神のみわざがある。それが何なのか耳を澄まして神

の声を聞こう』というメッセージがある。そして『呼ばれるこの身は、力も無く』『くびきを負い、あえいでいる』と召命を聞いた人の内的な葛藤が歌われ、しかし諸聖徒たちに勇気づけられて新しい課題に励んでゆこうと展開される。欠点を持ったあるがままの自分が主によつて生かされ、日々の業に立たされていく様がすつきりとした枠組の中で爽やかに歌われている⁽³⁾ということであります。

② Praise and Worship Movement

その起源はカリスマ運動にあるといわれています。Praise and Worshipでの礼拝に用いられる讚美歌はしばしば Worship Song と呼ばれています。(直訳すれば「礼拝歌」という意味であります)が、現代キリスト教世界ではもつと狭い意味で使われています。(音楽的には伝統的な賛美歌よりももつと軽い流行歌的な音楽語法が好まれ、「クラシック」よりも「ポピュラー」のジャンルに属していると言えるかもしれません。歌詞の上では基本的には「証し」よりも「賛美」あるいは「礼拝」が強く意識されているものが多く見られます。

音楽・歌詞の共通項として浮かび上がってくるのは、特に若者文化を念頭に置いた「日常性」です。その評価の尺度としては、覚えやすさ、親しみやすさ、そしてノリの良さ、といったような要素が前面に出てきます。⁽⁴⁾ 場合には伝統的な賛美歌がギターやキーボードの演奏用に軽やかに改造され、WSのレパートリーに加えられることもあります。

では今度は、日本で生まれた **Praise and Worship** ソング「主の前にひざまずき」(詞・曲 岩渕まこと) を歌ってみましょう。^⑤

1 主の前にひざまずき

心から賛美捧げる

あなたはとこしえに

私の神

3 主の御手に 支えられ

この道を歩み続ける

あなたはとこしえに

私の神

2 主の愛に 満たされ

心から感謝ささげる

あなたはとこしえに

私の神

この曲は、先ほど申し上げたように、「ポピュラー」のジャンルに属し、流行歌的な音楽語法で書かれています。そして歌詞も「賛美」あるいは「礼拝」が強く意識されていると言えるでしょう。非常にシンプルな短い言葉が歌詞に使われており、覚えやすく、親しみやすいといった **Praise and Worship** の要素を満たしている賛美曲と言えるでしょう。

2 伝統的な賛美歌をアレンジする

最後に伝統的な賛美を効果的に、また少し現代的にアレンジして歌うことに対するアイデアです。

① 賛美歌のもつ歴史や背景、エピソードを紹介する

このことで、その賛美歌に対する親近感がぐっと近くなると思うのです。

例えば、「O Happy Day」という曲を取り上げてみましょう。

『讚美歌』516番「主イエスを知りたる うれしきこの日や」の折り返しの部分の歌詞が、あのゴスペルで有名な「O Happy Day」の歌詞なのです。『聖歌』231番の「うれしきこの日よ」中田羽後訳では、次のように讚美歌よりもっと原歌詞に忠実な訳になっています。

うれし　うれし　この日ぞ　うれしき

イエスキミこの身を救わせたまえ

うれし　うれし　この日ぞ　うれしき

折り返しを讚美歌で訳されている原歌詞は以下の通りです。

Happy day, Happy day, when Jesus washed my sins away

He taught me how to watch and pray and live rejoicing every day.

Happy day, Happy day, when Jesus washed my sins away

でもこの曲のゴスペルを歌ったことのある方なら歌詞が少し違うことに気づかれると思います。

ゴスペルで歌われている歌詞は

He taught me how to watch **fight** and pray and live rejoicing every day. (太字は引用者)

ゴスペルのほうには、**fight**という言葉が入っているのです。これはこの歌をゴスペルとして歌ったアフリカ系アメリカ人たちの現実を反映しています。彼らは自分たちの罪が主イエスによってきよめられたことを喜ぶとともに、現実のアメリカ社会に存在する差別と闘わねばならなかったのです。⁶

さらに賛美歌をゴスペルとして歌っているものですからこの **fight** は「罪との闘い」をも意味しているはずですが。

Watch (目を覚まして) と Pray (祈る) の間に挟まれているのですから。

② テンポを変えてみる

賛美歌のもつ歴史や背景を知ることによって歌い方、弾き方、テンポも変わってきます。また礼拝の会衆の人数、礼拝構成メンバーの年齢層、音楽教育の有無によってもテンポは変わります。賛美歌の言葉、詞のフレーズを生かした歌い方ができるテンポにリードしたいものです。

③ ハーモニーを変えてみる

今、若者たちの心をとらえているといわれているゴスペルでは、ハーモニーやビート感を変えることによって、たくさんの方の伝統的な賛美が生き生きと歌われています。その一つとして今日は『讚美歌』516番「主イエスを知りたる うれしきこの日や」とゴスペルの「O Happy Day」をご紹介します。では『讚美歌』516番「主イエスを知りたる うれしきこの日や」(原詞：Philip Doddridge, 曲：Edward Francis Rimbault 編)を伝統的なテンポ、続いて少しハーモニーを現代的に変えテンポもアップして歌ってみましょう。

1 主イエスを知りたる うれしきこの日や、

いやしき身をさえ、すくわせたまえり。

きみにむつぶ この日ぞ嬉しき、

うれしきこの日や、うれしきこの日や、

きみにむつぶ この日ぞ嬉しき。

3 くすしきみむねを 日に日にさとれば、

いかなるときにも、きみよりはなれじ。

きみにむつぶ この日ぞ嬉しき、

うれしきこの日や、うれしきこの日や、

きみにむつぶ この日ぞ嬉しき。

2 イエスコそわが君、わが身は主の民、

いずこへなりとも、みむねのまにまに。

きみにむつぶ この日ぞ嬉しき、

うれしきこの日や、うれしきこの日や、

きみにむつぶ この日ぞ嬉しき。

四 むすび

信仰の遺産として継承していきたい伝統的な賛美歌と新しいタイプの賛美歌、さまざまな素材の賛美歌を恵みの素材として与えられている私たちは、それらをいかに懸命に用いるかということが問われています。礼拝を一つの「食卓」と考えると、よい調理をするために、優れた料理人がそうであるように、常に「素材」の開拓と「調理法」の研究に邁進していただきたいと願います。

讚美歌を評価するときに、「今」という時に対する理解がとても大切だと言われています。特に日本では、三・一一という大きな震災を経験した「今」、という時を、どのように理解し、誰と共に賛美することを願うのでしょうか。そんなことをいつも考えながら、どうぞよい礼拝音楽体験を学生の皆様と分かちあっていたきたいと願います。賛美のよい体験が神様を好きになったり、教会を行くきっかけになったりすることにもつながるのだと信じるからであります。

新しい歌を主に向かって歌え

主は驚くべき御業を成し遂げられた。

右の御手、聖なる御腕によって

主は救いの御業を果たされた（詩編九八・一、新共同訳）

今も日ごとにこの驚くべき御業を私たちになし続けてくださる主のみ名が聖学院大学において高らかにほめられたえられ、よき礼拝賛美が捧げられていきますように祈りつつ、発題を終えさせていただきます。

注

- (1) 藤井秀一（日本バプテテスト連盟酒田のぞみキリスト教会）、『新生讚美歌ニュースレター』第三二号、日本バプテテスト連盟宣教師部教会音楽室（二〇一一年一〇月二六日発行）
- (2) 井上義「「会衆讚美の刷新」の二つの流れ」井上義ほか『新しい歌を主に歌え——礼拝と会衆讚美と讚美歌集の現在を探る』いのちのことは社、二〇〇四年、二八一―二九頁
- (3) 横坂康彦『現代の賛美歌ルネサンス』日本基督教団出版局、二〇〇一年、七三―七四頁
- (4) 井上前掲書、三二―三四頁
- (5) 『ミクタム プレイズ&ワーシップ合本』MICHAM BOOKS、一九九三年
- (6) 水野隆一「オー・ハッピー・デイ！——ゴスペルの歌詞を読む」『礼拝と音楽』No. 一〇八（特集「ゴスペル」、日本基督教団出版局、二〇〇一年二月一日発行）、二二頁

（二〇一二年二月八日、二〇一一年度「全学礼拝懇談会」発題

全体課題「全学礼拝の豊かな守り方——讚美の恵み」